

「入試問題この1問！2024年度・麻布中学校」

■問題構成と所感

問題構成は大問1の文学的文章のみ。選択問題が3問と記述問題が7問、漢字の書き取りが4問です。

出典は宮下みことさんの作品で、使われている語彙や、場面設定は現代の状況と大きく変わらないので、児童は十分理解できるはずです。

麻布中学ですので、文章の長さとしては十分手応えがありますが、読む学習を重視してきた受験生であれば、最後までの内容の展開を十分に理解して読むことができますし、集中力が途切れるような変な展開もないので、いたって標準的な出題だと言えます。

■解答作成

範囲Dの前では守さんが自分の感情が入り乱れて、泣き出してしまう場面が描かれている。これまで親、先生、周りの級友などからの評価によって自分の立ち位置を決めていたけれども、画用紙を見つめながら、自分を見つめていくうちに、本当の自分の感情と接することができてきます。完成した絵が守さんの感情を描写しているのですが、結局それはまだ表現しきれない作品になっています。とはいっても、ここは守さんが自分の気持ちを解放した場面です。そこを受けながら、範囲Dを読んでいくといいでしょう。

【解答例】これまで先生や親に対して言って良いこと、悪いことしかなかったが、自分の気持ちを探っていくうちに、自分でも言葉にできないとも経験を積み重ねていくにつれて、表現できるかもしれないし、それにより自分の世界をもっと広げられるかもしれないと気づいたから。

■文章の内容について

小学3年生の守さんが、クラスの学級委員となるときの描写、クラスで林間学校へ行っているときに、自分の班で起こった出来事の描写、自分一人で作業をしているときの描写とざっくり3つの場面で構成されています。

それぞれの場面で、守さんの苦しい胸の内が描かれていますが、しだいにその苦しい胸の内が晴れていくように内容は展開していきます。（細かいことは省略）

自分と周りの人間関係において、自分はどうすればいいのか、少年ながらの悩みを筆者が説明するように描写されています。

■まとめ

**文章のトレースになることだけをまとめようとせず、自分の言葉を勇気をもって出してみよう！**

いわゆる「名門」と呼ばれる（「進学校」ではない）が求めている記述解答は、もちろん文章を読んで、それを理解していることは絶対条件ですが、それ以上に、その文章を読んでどのように自分の言葉で文章を読み込んでいるかを示している解答です。トレース（なぞりがき）をするだけでなく、その先にある自分の文章理解を言葉で表現できるように、少しずつ練習していくといいでしょう。

■この1問！

**問十は単に指定された範囲の内容をまとめてはダメですよ！**

問十 線⑩「守は晴れやかな気持ちだった」とありますが、泣いてしまった守が「晴れやかな気持ち」になったのはなぜですか。D【 】に注目して説明しなさい。

問題文にどの範囲に注目してと指示されているからそこだけ読んで答えればよいと考えてはいけません。そもそもこの問いの指示はこの範囲をまとめろというものではなく、あくまでも「守は晴れやかな気持ちだった」理由を答えるので、範囲Dはあくまでそのヒントにすぎません。それもかなり抽象的に書かれていますので、本文全体を通してその内容をまとめる必要があります。